自労にも首切りが
斗いに備えて居住組織

昭和三十一年度の失対予算を三億七千万円もケズつた労働省は、全国の職安に、適格審査と称する法律違反の通達にもとづいた首切りを指示し、福岡県では、この指示に従つて、一月中旬県下全般にわたつて一セイに再調査を実施しようとしてきた。

「もともと失対事業というのは、職を奪われ、又は職のない者が、一定の職業にありつくまで、生活の手段として働いているところで働らく意志と能力があれば、誰れでも働らかせなければならない」ことになつている。

それを政府は、予算の中で失業者の数を抑え、そのために適格審査を設けて、職安の門をたたく人々を無下に排除している。

勝手に決めた規則（法的には根拠がない）の難関を通過している人々が、現在働いている四千八百二十名の仲間である。

首切りの意図は、職安が云つているように「ホントウに困つている者と入替つてもらう」ではなくて絶対数を減らし、失業者が減つたと宣伝し、失業問題についての国民の関心をそらし、工場、鉱山などに働らく労働者全般を低賃金にシバリつけるための足場に利用しようとしている。

組合としては、政府の首切りを職安側が云つているように「不適格者を排除して、ホントウに困つている者を入れるため」といつた親心から来た方針ではないと考えている。

働らくところがあれば、誰でも喜んでやめるし、他の職業に入つていくことは、門司や八幡などの例で、ハツキリしている。

大牟田の場合、決して雇傭が増える状態ではなく、むしろ超過利潤追究のために、生産性向上運動やオートメ化によつて、人員を減らしている傾向が強い。新期学卒などの増加によつて、失業問題に益々拍車をかけており、前途は全く暗ヤミである。

組合員は、こうした大牟田の情勢の中から「一人の首切りを認めることは、自分の首をシメるのと変らない」「一人でも首切りを許すな」の合言葉のもとに結束を固めている。

この首切り方針発表によつて、組合内は急速に固まり、闘争資金の徴集が組合員から提案され、一躍今までの三倍（月百四十円）に値上げされることが決められた。

また、今山支部では、二十三地区の仲間が自主的に居住会議をもつて、賃闘や首切り反撃の態勢と心構へをかため、早鐘地区でも、全地域に居住組織（三鉱の地域分会にあたる）が出来上つた。

大牟田職安所長は、二月二日の交渉決裂後、二回にわたつて組合本部を訪れ「なんとか話し合いに応じてくれ」と頼みこんできたが、組合としては首切りのための再調査方針をテツカイしない限り、交渉には応じないことを言明し、現構へといつた恰好である。

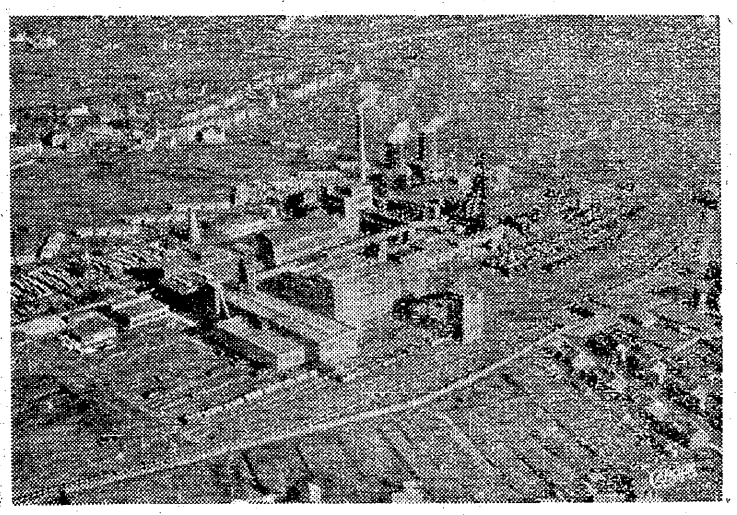
通勤も自家用で
西独便り頭が痛い会話

西独政府と日本政府との間で結ばれた日本人炭鉱夫の西独炭鉱派遣は第一陣として五十九名がさる一月十九日に羽田空港を出発、二十一日デユセルドフに到着、以来なれぬ異境の地で言葉も判らぬなかにはやくも坑外実習を終えて坑内作業に従事している。三池から第一陣に加わつている本田誉明（宮浦22）貝田正実（四山23）川崎博美（三川22）の三氏からはさきに現地のもようを知らせた第一便が三鉱労組関紙に発表されたが、そのどのもようが大地評に大要つぎのようにもたらされている。

……前略…このハンボン市は大牟田と同様完全な工業都市で、街の中に私たちの立坑があり有名なライン河がすぐ近くを流れて、陸の港として交通機関の重要な役割を果しています。

気候は九州の三月頃のように暖くオーバ、手袋なしに快適で、夜はよく雨が降ります。しかし日本のように美しく澄んだ天気は殆んど見られず、毎日どんよりしています。ドイツ人の日本人にたいする感情は新聞の報導のように予想以上に親切にしてくれます。外人のわれわれとしては大変助かり感謝しています。先日雨の中を走つて出勤していると学校帰りの小学生が「カイダ（貝田）カイダ」と呼びとめ逆に向うの会社まで傘に入れて送つてくれました。これは一例ですが非常に親切です。

ドイツ労働者の生活状態は、はつきりいえることは衣、食が非常に質素なことです。服は普通着と晴着の二着が普通です。もちろん日本のような気候の変化がない理由もありますが…。食事は労働者の家庭も、重役の家庭も全然違わぬ。そうで日本のような変化のある食事はとらず年中同じものを食べています。



このように節約して部屋の装飾や家財の購入などは非常に力を入れて、おそらく鉱員の家庭で日本の部長級以上の設備をしています。

テレビ、ラジオ、電蓄、撮影機などは常備品で自家用車やオートバイで大多数出勤しています。ここでは三カ月すればオートバイは楽に買えるそうです。……中略…有給休暇は断片的に利用できず一括して（例えば二週間）せねばなりませんので一寸困ります。

私たち日本人も七月に休暇の請求欄ができますので、皆そろつてフランスを旅行しようと思つています。パリーまで汽車で十時間、費用は三百マルク（約二万五千円）あれば二週間は楽に旅行できるとのことです。

いま一番困つているのは話ができないことで、外出するにも両ポケツトに辞書、会話の本とあるだけもつていきます。普通の日に二時間の教育をやつていますが、私は親切な家庭に招かれて毎日教わつています。いまはこの点に重点をおいて毎日一生懸命勉強しています。

（写真はフレドリツヒテユセン二・五坑全景）

四方八方話

十人十色

話は昔にさかのぼる。

昭和三十年四月、議員さんを多く議会に送りだした大地評は「議員との連絡を密にせよ」との組合員の声で、尊い会費の中から一金四千円也を割いて連絡箱を作つた。

この箱には、闘争方針や賃闘ニユースを入れるのだが、常にキレイに持つて行かれる議員さんや、五、六カ月もウズ高くホコリをかぶつている議員さんや、尻フキ紙かと云つて持つて行かれるヒドイ議員さんもあるという具合で、マチマチだが。

候補者時代と変れば変るものだと云つて「ホントウに困つている者と入替つてもらう」ではなくて絶対数を減らし、失業者が減つたと宣伝し、失業問題についての国民の関心をそらし、工場、鉱山などに働らく労働者全般を低賃金にシバリつけるための足場に利用しようとしている。

組合としては、政府の首切りを職安側が云つているように「不適格者を排除して、ホントウに困つている者を入れるため」といつた親心から来た方針ではないと考えている。

働らくところがあれば、誰でも喜んでやめるし、他の職業に入つていくことは、門司や八幡などの例で、ハツキリしている。

大牟田の場合、決して雇傭が増える状態ではなく、むしろ超過利潤追究のために、生産性向上運動やオートメ化によつて、人員を減らしている傾向が強い。新期学卒などの増加によつて、失業問題に益々拍車をかけており、前途は全く暗ヤミである。

組合員は、こうした大牟田の情勢の中から「一人の首切りを認めることは、自分の首をシメるのと変らない」「一人でも首切りを許すな」の合言葉のもとに結束を固めている。

この首切り方針発表によつて、組合内は急速に固まり、闘争資金の徴集が組合員から提案され、一躍今までの三倍（月百四十円）に値上げされることが決められた。

また、今山支部では、二十三地区の仲間が自主的に居住会議をもつて、賃闘や首切り反撃の態勢と心構へをかため、早鐘地区でも、全地域に居住組織（三鉱の地域分会にあたる）が出来上つた。

大牟田職安所長は、二月二日の交渉決裂後、二回にわたつて組合本部を訪れ「なんとか話し合いに応じてくれ」と頼みこんできたが、組合としては首切りのための再調査方針をテツカイしない限り、交渉には応じないことを言明し、現構へといつた恰好である。

四十五秒にシグナル一つ
長生きしない国鐵員

二千円の賃金引上げ。

定員五十一万人の予算化。

不当処分の徹回。

等の諸要求をかゝげて闘つている国鉄労組大牟田支部は、二月二十一日より二十三日まで第一波をうち、二十三日より二十八日まで第二波をうち、逐次盛り上げをはかつて三月十一日以降の最大のヤマに持ち込む態勢をかためている。

これについて津城支部長は端的に現われているのはスピードアツプです。一例をお話すると、東京名古屋間を走るのに、シグナルが四五秒に一つの平均です。こんな所を交代なしに走らして御覧なさい。国鉄の組合員は長生き出来ませんよ。

西鐵家族組合の結成

西鉄労組はかねて家族組合の結成を準備していたが、こんど労働協約闘争、春季賃上闘争など大きい闘争を控え、闘いは厚みがなくてはこの大闘争に到底おぼつかないと云う考えから、遂に踏み切り、去る二十四日午前十時より大牟田の自動車分会は白銀車庫の車掌控所で、三百名中約百五十名が集り盛大に家族組合の結成式を行つた参加した主婦談

私は本日両関から参りました。一カ所に集つてますと都合がいいのですが、西鉄は離れればなれなんでね。でも労働者の家族と云うことに変りはありません。こうして婦人は何かにづけて結束しなきゃいけませんね、今日は来てつくづくそう思いました。

重富傷害事件に判決

去る二十七日大牟田地裁で余語実氏に徴役六カ月、古賀吉男氏に徴役四カ月とそれぞれ執行猶予二年の判決があつた。

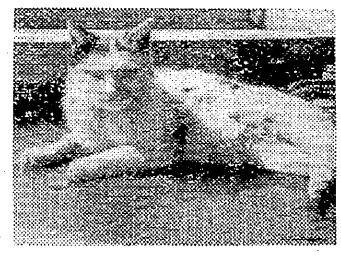
市教組の新役員決る

市教組は二十七日午後一時から市民会館で、第十三回定期大会を開き、一三〇〇組合員の信任投票により左記役員を選出した。

委員長	大木義治
副委員長	遠矢博志
〃	江上哲也
書記長	広木純作
書記次長	酒見知之　杉野茂行
執行委員	戸上昌之　田中慶文
	山本進一　平島弘喜
	藤原テツ　下川忠範
	杉原忠臣
	黒田博彦　永野美秀

四方八方話

猫になりたや



いつだつたか、メシをやらずにいたら近所から小鳥を三羽くわえて来た。さんざんたたいて追い出したが、しばらくするとさつきの騒ぎはどこへやらといつた顔で、ノツソリ事務所にもどつてきて、またストーブの側でゴロリと横になつているY君「あゝ、猫になりたや大地評の猫に……」

にヤリクリさんだんして一万円近く郵便貯金をしていたが、これを知つた夫のAさん

別れるときにコツソリ貯金通帳を持ち出してしまつた。

B子さん「これはウチがシンボウして貯めた金です。かえして下さい」とサイソクしたが、

どつこい、Aさんにも云い分がある。テナぐあいで話しがまとまらず、とうとうホントウのケン別れになつてしまつた。

翌日、この話しを聞いた輪番の仲間、

「アー失対は結婚も出来んとか、クソタレ、政府のバカヤロー」

と喉そべつている。それでも弁当箱の音でもしようものなら、どつそりと起きあがり、ニヤゴーニヤゴーとメシをせがむ。

菅生事件
現地を訪ねて

中山孝顯

福岡線豊後竹田で下車、二時間おきに出るバスも運悪く出た後で九炭労の勝野、野中両氏と共同で小型のタクシーを拾い、菅生村に向かつた。山あいをぬうようにして、だらだら坂を登ること約五〇分、五〇〇円の料金をとられたから約五里位の道のりだろう。道をはさんで二〇戸ほど家のあるところについた。

西を見ると阿蘇の山々が外輪山からふーつと三角の面を出しているが、雪をかぶりちようどボタ山のような感じである。それもそのはず、ここは海抜六〇〇米の高原地帯である。

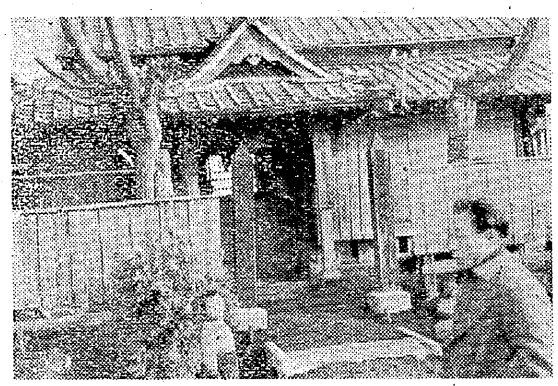
北に九重連峰、南に祖母、連山をのぞみ、まさに雄大な眺めだ。

一見、平和そうな村であるが、この駐在所に二十七年の六月一日火炎ビンが投げこまれた事件が起つたのである。しかもそれが百数十名の警官と新聞記者のとりまいている中で起つたのであるから全く奇妙である。ところが現場を見ると、ますますその気持が強くなる。例えば爆弾を投げこんだことになつている被告の後藤秀生さんと坂本久夫さんは事件の直前に竹田署の渡辺刑事と逢つている。ところがその場所は駐在所から何と十五、六米のところで、途中には何もないからよく見通せる。刑事が立つていることを知つていて、投げ込むような間抜けはあるまいと思うが、後藤さんたちが犯人になつているのである。紙面の都合で詳しく書けないのが残念だがこんな不合理なことはいたるところで発見される。

現場をひとまわり見て、近所の人たちから話しをきくことにした最初に逢つたのは山中久という五十年配の人でこの人は、菅生事件の謎の人物市木春秋をどこからともしれず家につれて来た松井波津雄から家屋敷を買つた人であるが「松井はひどい男です」という。一二五万で買つた家や土地に松井のものでない土地、つまり農林省や信用組合の土地まで含んでいたというのである。松井のことについては外の村人たちも異句同音に「あの人はボスでしたけんのう」と答える。

今では全く村の人たちから嫌われている。

次に駐在所のすぐとなりで豆腐屋をやつている阿倍ウメさんに、事件当夜の話をきいたところ「夕方の四時頃から変な人間がうろうろするので何かあるのではないかと思つた」と警官が事前に菅生に来ていたことを裏付けている。また「ドンと音がしてすぐ東へ走つて行く足音がした」という。ところが犯人にされている後藤さんと坂本さんは駐在所より西の方で逮捕されたのである。



ダイナマイトをかくしていたという菅忠愛さんのお母さんと逢つたが、彼女は警察の非道なやり方を涙ながらに訴えられ、私たちもきいていてついポロリと涙がこぼれた。家宅捜査状も逮捕状もなしで家の中に押し入り菅忠愛さんを連行したのであるが、そのとき見つけ出したというマイトの箱をあけるのにちやんとバールを用意して来たというのである。

その後、あつちこつちで菅生事件のことをどう思うかときいてまわつたがみな「当時は日共がやつたと思つていたが、今では後藤さんたちがやつたのではないことがわかつてきました」と答えてくれた。封建的で「お上のやることに間違いはない」と思つていたこの村の人達も「警察はどうも臭い」と思い始めているようである。

このことは菅生村だけでなく竹田の町でも同様で、たくさんの人たちが公正裁判要求大会に集つて来たし、翌日の公判の傍聴にもわんさと押しかけ法廷に入れない人たちはボタン雪の降る中でじーつと立つたまゝスピーカーからもれる内のようすにきき入つていた。

私たちがとまつた旅館のおやぢさんも、菅生事件のことで来たと知ると「こんなでたらめなことはありません、しつかり頑張つて下さい」と私たちを励ましてくれたのである。

【菅生事件とは】昭和二七年六月一日深夜の十二時頃、大分県の菅生村の駐在所に火炎ビンが投げこまれた警官殺害事件で、現在、福岡高裁で第二審の公判が行なわれているがこの事件はますます権力によつてデツチ上げられたものであるということが明るみに出つゝある注目すべきものである。

（筆者は大地評事務局次長）

【写真説明】火炎ビンが投込まれた菅生村駐在所、事件当時写真に見える塀はなかつた。